

■開設年度		■開講部局	
2012		共通教育	
■科目名			
持続可能な開発と東洋思想（入門）			
■英語科目名			
Sustainable Development and Oriental Environmental Thoughts: Introduction Course			
■前後期		■開講区分	
前期		毎週	
■科目形態		講義	
■単位数		■大分類（科目）	
2		教養科目	
■中分類（分野）		分野1	
■受講学部学科			
全学部			
■担当教員		■担当教員所属	
萩原豪		稲盛アカデミー	
■連絡先（TEL）		■連絡先（MAIL）	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
■オフィスアワー（授業時間外の対応）			
水曜日3時限目（ダブルブッキングを避けるため、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください。）			
■共同担当教員			
■キーワード1		■キーワード2	
視野・判断力・探求能力		コミュニケーション能力と相互理解	
■授業概要（目的・内容・方法）			
〔背景〕「持続可能な開発」（Sustainable Development）という言葉が国際的に使われるようになってから約30年が経過しました。そして現在まで地球環境と開発を巡る問題には「持続可能な開発」という考え方をを用いることが多くあります。しかし、この言葉の共通認識はあるものの、その定義はいまだ定まっていないのが現状です。他方、東洋社会には伝統的は「人間は自然との関係性の中で生きている」という「持続可能な開発」に深く関連する環境観が存在します。東洋社会では、人間の利益を絶対的に考えるのではなく、自然生命の固有価値のなかに人間の生存を見出してきています。日本における自然崇拜も、この事例のひとつと言えるでしょう。 〔目的および方法〕今後、「持続可能な社会」の構築を実現するためには、さまざまな主体（個人・政府・自治体・地域社会・企業・民間等々）が協力し合わなければなりません。本講義では「持続可能な開発」と「東洋の環境思想」という2つのテーマにして、日常生活の中で見られるモノやコトなどを具体的事例として取り上げ、ESD（持続可能な開発のための教育）をどのように展開していくか、「持続可能な社会」に対する知識・認識の共有化を行っていきます。そして国際社会が模索している「持続可能な社会」の在り方について受講生と一緒に考えていきます。そのため、ワークショップ形式で受講生がお互いに考え学んでいくスタイルをとります。 〔内容〕本講義（入門）では「持続可能な開発」がどのような意味を持つのか、ということに重点を置いていきます。何回かのグループワークを経た後、私たちの身の回りにある任意のモノ（あるいはコト）を選んでもらい、第三者（鹿大生を想定）にどうやったら気づいてもらえるのか、行動をしてもらうことができるのか、という企画を立案してもらいます。この企画については、かごしま環境未来館で研究報告会を行い、発表をしてもらいます。			
■学習目標			
(1) 「持続可能な開発」や環境思想を巡る国内外の動向を理解するとともに、環境問題を多角的な視点から考察していくことができるようになること。			
(2) 自分の眼と耳と足で情報を探して作りだし、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術の習得。			
(3) ワークショップやグループワークなどの協働作業を通じて、問題認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成。			
(4) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得。			
■授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）			

〔授業内容および方法〕第1回目の授業ではガイダンスを行い、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。授業で取り上げる作品は受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業はワークショップ形式で行います（講義とグループワークを組み合わせます）。グループワークについては授業時間外にグループメンバーと連絡をとりあったり発表準備などの作業をする必要が出てくると思います。

- ・ガイダンス
- ・レポートの書き方、グループワークの進め方
- ・「環境」に関するグループディスカッション
（基礎的なもの、時事的なものを組み合わせる予定です）
- ・「持続可能な開発」と「持続可能な社会」とは何か
- ・環境思想・倫理の系譜
- ・自然観察会・環境教育施設見学会（場所未定）
- ・グループワーク
- ・研究報告会（かごしま環境未来館）
- ・ふりかえり

〔授業時間外活動〕週末の時間を利用して正規の授業を行うことを計画しています。1月下旬：研究報告会（かごしま環境未来館：グループワークで行ってきたことを発表してもらいます）。時期未定：自然観察会および環境教育施設見学会（場所未定）。これらの活動は木曜3時限目の授業時間数に読み替えます。詳細については第1回目の授業（ガイダンス）でお知らせします。

■受講要件	■成績の評価基準
(1) 本講義のテーマに関心を持っていること。 (2) 後期開講の「持続可能な開発と東洋の環境思想（基礎）」を併せて履修することを推奨します。	授業への参加度（授業態度やグループワークへの貢献度、企画運営への参画度など）：60%、課題等提出物（リアクションペーパーやレポート、研究報告会の資料・最終レポートなど）：40%、で総合的に判断します。学期末試験は行いません。 〔注意〕次に該当する場合は評価対象外とします。(1)出席が総授業数の3分の2未満の場合、(2)研究報告会の後に提出する最終レポートの提出がない場合。
■教科書	■参考書
教科書は使用しません。必要な資料は授業で配布します。 課題作成のために必要な参考資料は別に提示します。	参考文献として書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、身の回りにある情報源から日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。参考文献一覧は授業中に配布しますが、主たる参考文献として次のものを挙げておきます。 (1) 尾関周二・武田一博・亀山純生『環境思想キーワード』青木書店、2005年。 (2) 稲盛和夫著、鹿児島大学稲盛アカデミー編『稲盛和夫講義集』鹿児島大学稲盛アカデミー叢書1、2010年。 (3) 加藤尚武『環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー）丸善、1991年。 (4) 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー）丸善、2005年。
■その他	

グループワークを中心とした講義の進め方の説明を行うので履修希望者は、第1回目の授業に必ず出席してください。履修登録人数が多い場合は第1回目の授業時に抽選を行います。